



第22回 外国人市民による日本語スピーチコンテストから



2月18日(土)に川崎市国際交流センターで、「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」が開催されました。250名もの来場者で会場はほぼ満席となりました。

コンテストの条件は「来日5年以内の外国人市民」で、今回は過去2番目に多い18名(中国7名、ベトナム5名、台湾2名、韓国1名、スリランカ1名、ネパール1名、ミャンマー1名)が出場しました。審査委員長の関口明子さんからは、「派手なパフォーマンスではなく、丁寧で美しい日本語のスピーチが心に響いてきました。」との講評がありました。



▲司会のモンドラジニさん(インド)とフラディムスタファさん(イラン)

上位受賞2名にインタビューさせていただきました。

[質問内容]

- ① 日本語スピーチコンテストに参加するきっかけ
- ② 日本に興味を持ったきっかけ
- ③ テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
- ④ これからの目標



最優秀賞

劉 松竹梅さん(中国出身)
「リオ凱旋パレードから学んだこと」

- ① 昨年7月に来日してから通っている、日本語クラスのボランティアの方から勧められました。先生やクラスの友だちもいい人ばかりでいつも楽しいです。中国でも日本語の勉強は3か月間しました。
- ② 中学生のとき、日本のドラマ「世界の中心で愛を叫ぶ」を見て、日本の文化や映画、日本という国に強い興味を持ちました。
- ③ 日本に来て色々な経験をしたなかで、一番印象的だったことだからです。伝えたかったのは「情熱を持ってあきらめずに最後まで頑張れば、今までにない景色が見えるし、幸運の女神が微笑んでくれるかもしれない」ということです。
- ④ 今年(2017年)4月から、日本の大学で映画関係の勉強をします。映画作りをしっかりと学びたいです。



川崎商工会議所会頭賞

金 岳蕊さん(中国出身)
「環境に優しい日本」

- ① 中国では日系の会社に勤めていたのですが、日本語は難しかったです。昨年6月に来日して、日本語の勉強をする中で、スピーチコンテストは勉強や日本語習得にとってもよいチャンスになると思いました。
- ② 最初は仕事を通じて日本の文化に興味を持ち、中国と日本の違いやその背景を考えて調べたり、日本語学校の先生方に教わったりしました。
- ③ 日本の公園は清潔で気持ちよく、街にはゴミ箱がないのにゴミが全然落ちていません。中国でもゴミの分別はありますが2種類だけで、日本で生活する中で中国と日本の違いに気づきました。日本人はどうしてゴミのルールを守れるのか、いつから厳しくなったのか調べました。
- ④ 今年の6月に中国に帰国します。日本の良さを紹介しながら、環境問題に取り組み、日本と中国の架け橋になればと思います。



川崎ライオンズクラブ 優秀賞
ドランジャニ カウシャリヤさん(スリランカ出身)
「しずかな日本人」



川崎市国際交流協会 優秀賞
内山 ティトゥーサンさん(ベトナム出身)
「日本での出産体験」



川崎ライオンズクラブ 特別賞
李 琛さん(中国出身)
「私は日本の生活に慣れていけるかな？」



川崎市国際交流協会 特別賞
周 世桓さん(台湾出身)
「変身の扉」

(取材・原稿:編集ボランティア 小島 俊彦、福地 直子)